

令和4年度 原子力科学研究所/核燃料サイクル工学研究所総合訓練で抽出した課題と対策について

1. はじめに

令和5年2月21日に実施した原子力科学研究所/核燃料サイクル工学研究所総合訓練の結果を踏まえ、課題を抽出し、対策の検討を行った。対策については、次年度の訓練で改善状況を確認する。

2. 改善検討の進め方

機構内外からのコメント（訓練評価者による評価結果、訓練後の振り返り、アンケート等）から本訓練における課題を抽出した。抽出した課題について原因分析を行い、対策を立案した。

また、訓練目的や達成目標を踏まえ、重要度が高いと判断した課題を「主な改善事項」とし、訓練で抽出した具体的な問題点を含めて整理した。主な改善事項は、次の2項目である。

- (1) ERC への「伝わる」情報発信
- (2) 複数拠点発災時の情報共有

3. 主な改善事項

(1) ERCへの「伝わる」情報発信

【問題点】

事象が発生してからERCとTV会議接続される初動の段階において、ERCへ伝えるべき情報が溜まっており、機構対策本部からERCに対して一方的な情報発信を行った。

【課題】

情報が錯綜する初動の段階において、ERCへ簡潔明瞭に「伝わる」情報発信ができていない。

【原因】

収集した情報を全て伝えなくてはという意識が働いてしまい、途中でERCの理解度を確認するという認識が抜けていた。

【対策】

ERCへ提供する情報量が多くなる場合は「ERC、ここまで宜しいか？」と途中で理解度を確認するという基本動作が徹底できるよう、事前の教育内容の改善を行う。また、[ERCへ提供する情報量が多くなる場合]を、[特に異なる拠点、施設、種類などの情報が続く場合]と定義しマニュアルに明記する。

(2) 複数拠点発災時の情報共有

【更なる改善事項】

機構TV会議システムを用いた複数拠点発災時の情報共有においては、発話の交通整理が重要であるため、拠点からの発話が重なった場合には機構対策本部が重要度（発生している事象の重大性、進展性）を考慮し、どちらの発話を優先するか判断して指示するとしている。本訓練では、概ね対応できていたが、発話のコントロール含めた情報共有の在り方について今後も継続検討していく必要がある。

【対策】

機構TV会議システム上における簡潔明瞭な発話方法のルール化等、引き続き、複数拠点発災時における情報共有の仕組みを検討していく。

4. その他の改善事項

No.	課題区分	課題	原因	対策
1	プレス	本訓練では原科研と核サ研が個別にプレス対応を実施したが、本来であれば合同のプレス対応を機構本部主導で実施すべき。	今回は2拠点同時発災訓練が初めての試みであったこともあり、合同のプレス対応までは訓練対応の中に盛り込んでいなかった。	より実地的なプレス対応が検証できるよう、次年度の2拠点同時発災訓練において検討する。
2	運営	ERC との情報共有に係るQ&A管理表について、質問時刻と回答時刻も記録すべき。	Q&A管理表に時刻を記載する欄はあったものの、何の時刻を書くのか分かりづらい表現であった。	Q&A管理表を見直すと共に、Q&A内容だけでなく質問時刻と回答時刻も記録するようマニュアルに明記する。
3	支援対応	支援物資要請対応の際、周辺道路の状況把握ができていない。	今回の訓練対応の中に、支援班による周辺道路の状況把握まで盛り込んでいなかった。	より実地的な対応が検証できるよう、今後の訓練ではインフラ・ライフラインの被災状況の収集を盛り込むことを検討する(内閣府ISUTサイトの活用等)。

以上